中小企業・個人商店向け 格安でホームページ作成

中小企業の経営戦略構築・業務改善・ＩＴコンサルティングなどを行っているアンリミテッドエクストリーム株式会社（大山口２／樋口彰久社長）が、ホームページ・サービス「らくらくホームページ」を始めた。

中小企業の売り上げアップを図る手助けをしようというもの。「国内のインターネット利用率は９割以上だ。不況の今こそ、中小企業や個人商店がホームページを活用すべきではないか。低コストで効果的な宣伝をするならホームページに限る」と樋口社長はその必要性を力説する。

ところが、ホームページの作成を専門業者に依頼した場合、初期費用が30万円以上もかかる他、毎月様々な諸費用を請求される。中小企業がホームページ作成に二の足を踏む大きな理由だ。

しかし、同社のホームページ・サービスだと、初期費用１万円、月額５２５０円から。樋口社長は、約千社が加盟する千葉県中小企業家同友会の理事で、鎌ケ谷白井支部の幹事長と同支部の中小企業振興条例推進委員会の委員長も務める。

同社のホームページ・サービスが地元の中小企業に活力を与えるかどうか注目したい。【問合先】アンリミテッドエクストリーム株式会社（電話０４７・４９７・０２００）

白井の整備された街並みに感動？

野田市「ガイドの会」が白井市内を散策

白井ふるさとガイドの会と交流

白井ふるさとガイドの会（堀澤三千男会長）は６月25日、野田市のボランティア・ガイド組織「むらさきの里野田ガイドの会」（深谷慧会長、会員36名）を白井市に招いた。この日、野田市から白井市にやって来たのは21名。

白井ふるさとガイドの会メンバーの案内で、郷土資料館、熊野神社、仏法寺などを散策後、白井駅前センターでの食事会に出席、交流を深めた。

白井講談会

７月12日（日）開催される。白井落語講談会が主催（協力・エヌ・アイ・エス・ハッピー倶楽部）する同講談会は、今回で第４回目。田辺一凛と神田春陽の２人が出演する。【開演】午後２時半【会場】御食事処「むらさき」（電話０４７・４９１・４９４３／西白井駅下車徒歩５分）【木戸銭】２千円（白井落語会・ＮＩＳパッピー倶楽部会員は千５百円。

演歌の大川栄策が特別公演

演歌歌手の大川栄策が８月25日、白井市文化会館で特別公演を行う。ミリオンセラーの「さざんかの宿」や新曲「浪速ことぶき」などを披露する他、永井裕子（キングレコード）も新曲「望郷岬」をひっさげて出演。

地元からは、北総会、大藤紫会、葵会、小笠原会、兼坂輝和嘉会、都の会が賛助出演する。午後６時15分開演（６時開場）、前売特別券は文化会館で扱っている。【問合先】０９０・３６９４・３４５１馬場崎

焼酎ボトルが３割引き

白井駅南口の「道」

白井駅南口の居酒屋「道」（電話０４７・４９７・４９６０）は、千葉興銀裏のパレットシロイにあり、鉄板焼きとお好み焼きが評判の店。開店１周年を記念して７月19日から同23日まで「記念セール」を実施する。

記念セール期間中、焼酎ボトル（韓国焼酎の「ビダン」を除く）が30％引きになる他、各テーブルに枝豆サービスが付く。「おかげさまで一周年を迎えることができました。夫婦で頑張っています。どうぞお気軽にお越し下さい」と京都出身の店長、田邊幸男さん（52）。【営業時間】午前11時半～午後３時、午後５時～深夜０時。

「すき家」と「丸亀製麺」が今夏相次いで出店

４６４号線沿いに有名飲食店２店舗がオープンする。牛丼とカレーのチェーン店「すき家」と釜揚げ讃岐うどんの「丸亀製麺」。目の前が白井大橋で、百円ショップ「ダイソー」とは道路を隔てた場所にある。新鎌ヶ谷のイオン２階にもある「丸亀製麺」は７月中旬、「すき家」は８月にオープンする予定だ。

こうしょう 幸正じゅんじ の提案箱

里地・里山を活かしたグリーンツーリズムを

６月議会（３日～26日）で私は、「里山の保全とグリーンツーリズムについて」というテーマで一般質問をしました。このテーマに関しては、４年前にも一般質問を行っています。今回の一般質問に先立ち、私は県庁の農村振興課を訪ねました。

県では「グリーン・ブルーツーリズムｉｎちば」という事業に取り組んでおり、①地域推進協議会の設置、②モデル地域サポートチームの設置、③庁内連絡会議の設置、④交流拠点施設連絡会設置及び活動支援―という推進体制を掲げていました。

県庁で県南部での取り組みが盛んということを聞き、さっそく南房総市の旧和田町に視察に行ってきました。旧和田町では、平成９年（１９９７）に小学校跡地を利用した体験交流型宿泊施設をつくり、グリーンツーリズムを推進してきました。

この自然の宿「くすの木」は、農水省の「豊かなまちづくり全国表彰」を受け、なんと年間約１万人の来訪者があるというではありませんか。交流人口の増加や土産品などで地域経済の活性化にもなっています。

９年前には「ネイチャースクールわくわくＷＡＤＡ」を開設し、毎年７月、８月には各地から多くの子供たちが集って体験交流を行っています。昨年、農水省・文科省・総務省が連携して推進している「子ども農山村交流プロジェクト」に参画し、千葉県初のモデル事業にもなりました。

私は、白井にある里地・里山は大いなる市の財産ととらえています。ニュータウン開発の前には、この白井には駅がありませんでした。長年、鉄道に絡む開発に縁がなかったので、グリーンエリアが残されたのです。都心にも近いのに、里山がすっぽり残っているのも白井の魅力でしょう。

このグリーンツーリズムは市の基本計画にも盛り込まれていますが、市内での取り組みにとどまっています。一方、緑の保全では、本年度の事業で約２万平米の特別保全緑地指定を追加し、地元ＮＰＯ法人の環境団体に管理をお願いしています。

またグリーンツーリズムを考えたとき、今ある地域財産にも着目すべきでしょう。例えば、旧平塚分校の有効利用です。将来的には農業体験できる滞在型の施設を整備することも可能です。それが市の自主財源の確保の一助になるかもしれません。皆さん、どう思われますか。ご意見をどしどしお聞かせください。

「提案箱」へのご意見・ご質問はメールで ▼
shiroi-t@nifty.com

博人館

高城靖雄 さん（歌手）

高校時代、五木ひろしの物まねで有名に

新曲は亡き母に捧げる『母なる大地よ』

テレビから流れる塩のコマーシャルといえば、「ハカタノシーオ（伯方の塩）！」。声量たっぷりである。一度聞くと、耳に残ってしまう。その声の主が、白井在住の歌手・高城靖雄さんだ。

高城さんは昭和33年８月10日、岩手県九戸郡種市町（現・洋野町）で生まれた。岩手県の最北端、青森との県境にある漁港だ。実家は半農半漁。兄２人、姉２人、つまり５人兄弟の末っ子である。

「とにかく貧しかったので、中学、高校のときは自分で学費を稼ぐしかなかった。海に素潜りして、ウニとかアワビを獲って寿司屋に売ったもんです」。県立種市高校時代の高城さんは「種高の五木」と呼ばれた。五木ひろしの物マネが上手だったからだ。

高校卒業後、千葉商科大学に進学する。大学の入学金も自分で稼いだ金で支払った。バイトに精を出す毎日だったが、合間をぬって「カラオケ大会」や「のど自慢大会」にも出場した。「なにしろ出れば、ほとんど優勝してました。賞金もバカにならない」

自信満々だった高城さんは「スター誕生！」「歌まねスターに挑戦！」といった視聴者参加型のテレビ番組に出場する。が、ことごとく落とされてしまう。「これでは駄目だと思って、川上八郎先生に１万５千円の月謝で弟子入りしたんです。大学３年のときでした」

戦後間もなく古賀政男氏に師事した川上氏は、20年以上も代稽古を任され、小林幸子や大川栄作など多くの有名歌手を育てた。こうしてプロの歌手を目指し始めた高城さんのアパートの部屋には、連日のごとくファンが押し掛けたという。

「リンゴの皮も剥けないような女の子がほとんどだったが、ひとりだけ手際よく料理をつくる女性がいたんです」。それもその筈、都内の有名料理学校の講師だった。「それからストーカーのように私を追っかけてきましたよ」

高城さんは大学卒業後、森昌子のコンサートでゲスト歌手として４年間全国を廻る。その後、ヒットメーカーの作詞家、荒木とよひさ氏の一番弟子となり、水原達矢という芸名で昭和62年（１９８７）にキングレコードから「日本海 '88」でデビュー。翌年には全日本有線放送大賞新人賞を上半期と下半期の２度受賞する。

平成３年（１９９１）、ＮＨＫ新人歌謡コンテスト入賞。その翌年、高城さんは結婚した。お相手は料理が上手で、「ストーカーのように追っかけてきた」という女性、初代ミス白井の栄冠に輝いた久美子さんである。高城さん32歳、久美子さん31歳のときだった。

結婚を機に、夫人の実家近くに一軒家を新築し、東京から白井に移り住む。平成７年（１９９５）に芸名を本名の高城靖雄に戻し、「倖せまわり道」「男龍」「幸福予約」「影あかり」などを発表する。

白井に住んで17年経った。１長女（高３）を筆頭に、長男（中１）、次男（小２）の良きパパである。「次男が通う白井第一小学校のＰＴＡ会長を今年３月まで務めたくらいですから、私も白井に愛着を感じています」。高城さんの名刺には、「白井ライオンズクラブ会長」の肩書きが。もうすっかり白井の人間である。

そんな高城さんに義理人情の大切さを教えてくれた母親は、４年前に亡くなった。亡き母親に捧げようと、自ら作詞作曲した新曲が『母なる大地よ』。ＣＤが８月５日にリリースされる。「ぜひヒットさせて、母に恩返ししたいですね」